

平成30年度試験研究成果

課題番号：H30-13

課題名：シカ生息地における植栽技術の確立

研究期間：平成26～30年度

研究担当：林業技術部林業研究室

1 研究の目的

(1) 背景・目的

本県では、西部地域を中心にニホンジカ（以下、「シカ」とする）が生息しており、造林地においてシカによる苗木の食害が問題になっている。苗木をシカ食害から守るために、防護柵や単木防護資材が使用されているが、木材価格が低迷する中、林家への負担は大きく、林業経営意欲の減退を招いている。

このような中、本県においてシカが好まず、かつ経済的に価値のあるシカ低嗜好樹種の解明及び苗木への食害を軽減する植栽方法の解明により、低嗜好樹種を活用した植栽技術を開発し、林家の所得向上及び林業経営意欲の向上を図る。

(2) 到達目標

- ① 本県西部地域におけるシカ低嗜好樹種の解明
- ② ヒノキへの食害を軽減する植栽技術の開発

2 成果の概要

(1) シカ低嗜好樹種の植栽試験

候補4樹種について、シカ生息地内で5年間の植栽試験を実施した結果3樹種でシカ食害率が対照のヒノキに比べて低位であった（図1）。この結果に5年経過時点の健全率などを加味し、シカ低嗜好樹種を選定した。

(2) ヒノキとの混植試験

シカが摂食しないことを見込みユズリハを混植したが、調査1年目に強度の食害を受け、その多くが枯死した。本手法によりヒノキのシカ食害を軽減することは困難であることが判明した。（表1）

3 成果の活用

2の（1）で選定した樹種をシカ生息地での造林に活用することで、シカ食害の軽減が期待される。

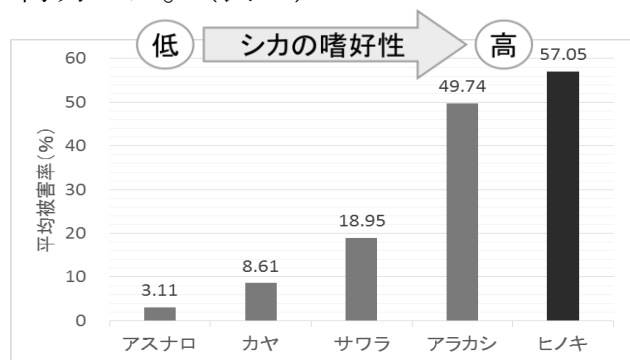


図1 個体別シカ食害量（平均）の樹種間比較（豊田）

4 主なデータ

表1 ヒノキ・ユズリハ混植試験の食害状況等(2015.3.20時点)

(単位:本(%))

区分	健全	シカ	その他	計	シカ食害後に枯死	
長門	ヒノキ	20 (100)	0 (0)	0 (0)	20 (100)	0 (0)
	ユズリハ	1 (2)	57 (95)	2 (3)	60 (100)	7 (12)
	ヒノキ(対照)	19 (95)	0 (0)	1 (5)	20 (100)	0 (0)
豊田	ヒノキ	0 (0)	20 (100)	0 (0)	20 (100)	0 (0)
	ユズリハ	0 (0)	60 (100)	0 (0)	60 (100)	51 (85)
	ヒノキ(対照)	0 (0)	20 (100)	0 (0)	20 (100)	0 (0)

シカ生息地における植栽技術の確立

林業技術部 林業研究室

背景

シカが植栽苗木（スギ・ヒノキ等）を食害

現在のシカ被害対策

- ◇防護柵で植栽地全体を囲む
- ◇苗木1本1本に防護資材を施工

【問題点】

設置費用・維持管理の労力 **大**



林業経営意欲の低下

■ シカ低嗜好樹種の解明に向けた植栽試験を実施

シカ低嗜好樹種を解明

シカ生息地においてシカ食害を軽減可能な造林樹種として活用